



大森六中だより

令和3年 2月号

大田区立大森第六中学校

校長 松尾 廣文

TEL 3726-7155

朝礼講話 「豆まきに込められたもの」

2月1日



United Nations
Educational, Scientific and
Cultural Organization

SDGsには、17の達成目標が掲げられていることは、皆さんもよく知っているところです。

その中で、「目標3：あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保すること」が全世界で困難な状況になっていることは、皆さん、さらによく知っていることと思います。

新型コロナウイルス感染症の収束が未だ見えない状況の中で、既に1年になる緊張の日々を我々は過ごしているのです。

そして、明日は、節分を迎えます。節分と言いますと、鬼がつきものです。鬼に向けて、豆を投げるという風習は、もともと日本では、穀物などには、邪気を払う力があると考えられていました。

とくに大豆は米や麦と同じくらい重要な穀物として扱われており、魔除けや生命力に関する霊力が込められていると考えられていたのです。

このことから、お祓いなどの行事などでは大豆がよく使用されていたという説があります。

鬼の首領と言いますと、京都の大江山にすんでいたという酒吞童子という大鬼です。平安時代、京の姫君が、次々と神隠しに合う。それが、陰陽師安倍晴明により大江山の鬼の仕業だとわかり、源頼光によって退治されるというお話です。

酒吞童子は赤い酒を飲んでいたというお話から、生き血をすする鬼、所謂疫病を指しているという考えもあります。

豆まきには、確かに邪悪なものを追い

出すとともに、一年、無病息災に過ごせるようにという意味も込められています。

そして、今脅威となっている鬼とは、新型コロナウイルスと言えます。

新型コロナ感染者の8割は、軽症ですが、この自覚しにくい点が、感染拡大につながり、医療体制が追い付かず、現状をさらに困難にしています。

鬼に対する豆のように、開発が期待されているものがワクチンといえるのではないのでしょうか。

これまでの常識では、ワクチン開発は、10年かかると言われていたものが、今回は、ウイルスが見つかったから1年で実際に使われ始めています。

もう治験段階もすぎ、接種が進んでいる国もありますが、ワクチンは、もともと健康な人に打つものですから、副作用と予防効果のバランスを慎重に見極めることが必要です。

日本では、政府が2月下旬までに接種開始できるように準備を進めるという計画が年頭に示されていますが、私たちの順番が回ってくるまでには、まだまだ時間がかかりそうです。

今できることは、手洗い、消毒、うがい、マスク、換気、そして、緊急事態宣言下では、不要不急の外出をさげ、お休みの日は、自宅で過ごすことです。

豆まきに込められた祖先の祈りを受け継ぎつつ、これからも皆で協力して、感染予防、感染拡大防止の新しい生活様式を心がけてゆきましょう。

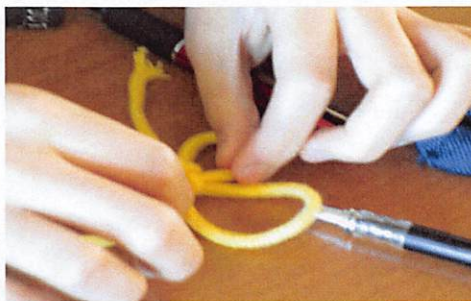
思いやりのある暮らしやすい社会を

シトラスリボンプロジェクト

「シトラスリボンプロジェクト」とは、愛媛県から全国に広まっているプロジェクトです。誰もが新型コロナウイルスに感染するリスクがあります。地域の中でのつながりが希薄にならざるを得ない状況の中でも笑顔の暮らしを取り戻すことの大切さを伝える活動です。感染された方には「おかえりなさい、大変でしたね。」「もう大丈夫ですよ。何かあれば遠慮なくおっしゃってくださいね。」と、医療従事者の方々には「ありがとうございます。」「お体を大切になさってください。」「何かお役に立てることはありますか。」という温かい言葉が、どれだけ人の心を慰めることでしょうか。思いやりのある暮らしやすい社会を目指すために作られたシトラスリボン、「シトラス」は愛媛県の特産品である柑橘類（シトラス）の色にちなんでいます。リボンの三つの輪は、「地域」「家庭」「職場や学校」を表しています。

1月25日（月）、生徒会の立松瑞華さんのプロジェクトについての説明に引き続き、ユネスコ委員が各クラスに派遣され作り方を実演し、その後、作り方の映像が繰り返し、電子黒板に流されました。みんなが不安な時だからこそ、情報を正しく理解するとともに、思いやりの気持ちを持って行動できるようにしましょう。

完成したシトラスリボン、皆さんはどこに付けましたか。筆箱やバッグにシトラス色が映えています。



放送委員会 新企画 お昼の放送が楽しみです！！

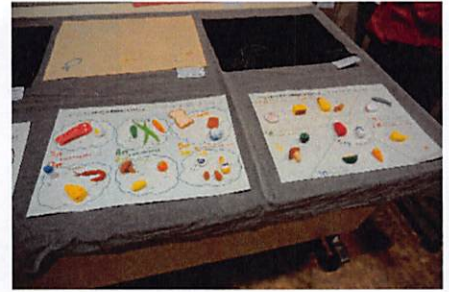
先生のオススメの曲紹介

「コロナ禍で様々な制約がある中、せめてお昼の放送だけでも全校生徒に楽しんでもらえるように」そして「中学校では自分の学年の先生方や授業や部活でお世話になっている先生方以外の先生方とかかわる機会が少ない。六中のすべての先生を身近に感じてもらえるように」との目的で、新企画が始まりました。週3日、先生方の「好きな曲」OR「思い出の曲」OR「今ハマっている曲」とそれにまつわるエピソードが紹介されています。

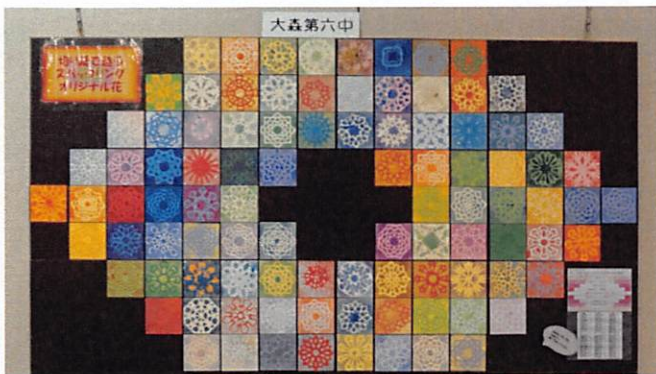
給食中は、全員前を向き、おしゃべりは禁止、という中で、「お昼の放送」の楽しみが増えました。

ちなみに松尾校長先生の思い出の曲は、荒井由実さんの「晩夏（ひとりの季節）」でした。この曲を聞いた時のイメージから生まれた道徳教材「葉鶏頭の季節」は各クラスに掲示されています。副校長先生の好きな曲は、渡辺美里さんの「10 years」でした。未来は自分の頑張りが次第、さあ、今日も頑張ろうと思わせてくれる一曲だそうです。

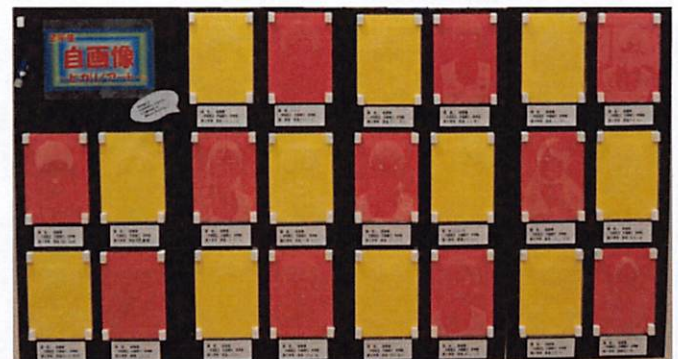
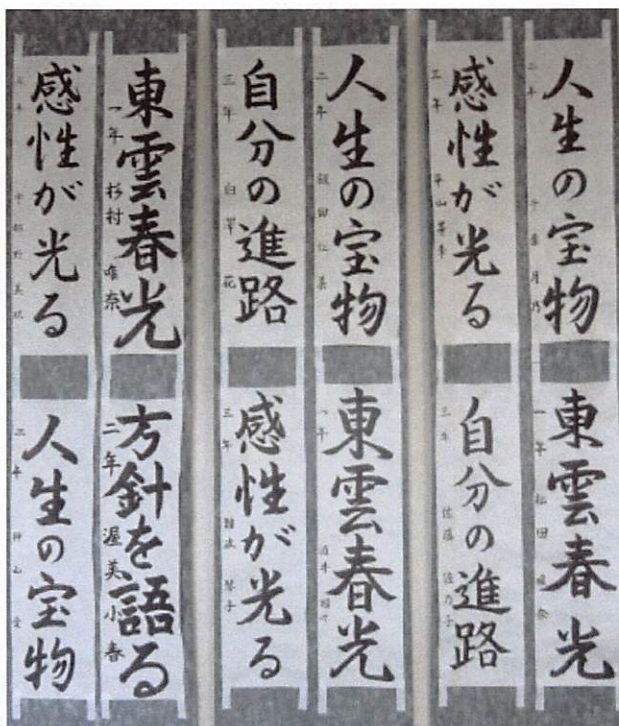
【大田区立中学校連合技術・家庭科展】



【大田区立中学校連合美術展】



【大田区立中学校連合書初め展】



1月から2月にかけて大田区の連合技家展、美術展、書初め展が開催されました。技家展と美術展ではそれぞれ授業で取り組んだ作品が展示されました。書初め展には、冬休みに今年一年に思いを込めて書いた書初めを出品しました。大田区の中学生の立派な作品が並ぶ中、六中生の素敵な作品も、多くの方々にいただきました。

持続可能な社会の担い手づくり

大田区立大森第六中学校 研修ユネスコ委員会

春が来た

昨年農援隊が植えたチューリップの球根が、芽を出しました。校舎北側にあったプランターを主事さんが南側の日当たりの良い場所に移してくれ、日ごとに芽が伸びています。芽が膨らみ、花が咲くまで楽しみにして下さい。



校庭のふきのとう

さらに、本校は自然豊かな環境にあることは地域の方がよくご存じで、ふきのとうが芽を出す頃だと、地域の方が見えて、出たばかりの芽を摘んで行かれました。天ぷらにするとおいしいです。春を感じる味です。

また、理科室前の校庭に紅白のウメが咲きました。春を告げる花が玄関に活けられ、香り豊かに咲き誇り、生徒やお客様をお迎えしています。



春は、確実に、そこまで来ています。

研究発表会

2月3日(水) 国立教育政策研究所教育課程研

の研究内容の発表で、持ち時間 20 分の発表では、伝えきれないほどの内容になりました。来年度より中学校は新学習指導要領になり、教育課程が変わります。学び方、教え方、新しい取組が導入され、今後高校入試や大学入試の内容も変化して行くと思われる内容になっています。本校は以前より準備をして研究しており、特に、SDGs をカリキュラムに位置づけ、主体的・対話的で深い学びを促す手立てを考え、本質的な問いを生徒に投げかけることで、生涯にかけて学ぶ姿勢を身につけさせるための工夫を考えてきました。さらに、地域や自治体、NPO の力を借りて、生徒の成長を促す活動に力を入れてきました。今回の発表では、生徒の変容につながり、我々教師の授業改善に結びつける内容になったと思います。本校ホームページに発表内容の YouTube リンク先が掲載されています。興味のある方はご覧下さい。

「SDGsの達成に向けた学校教育の取組」

～カリキュラム・マネジメントの工夫と
主体的・対話的で深い学びの実践～

国立教育政策研究所教育課程部 4/2/22

卒業期に向けて準備着々

今できることを模索しながら、生徒会の生徒が、卒業していく3年生のために準備をしています。卒業式まで無事に行事ができますように。

